

平成23年12月27日

京都市長様

京都市ごみ収集業務評価委員会
委員長 本多 滝夫

平成22年度下半期の業務履行に対する評価・意見書

京都市ごみ収集業務評価委員会は、平成23年7月7日の第5回評価委員会において、平成22年度下半期の業務履行に対する評価を行った。

平成23年2月に本委員会が提出した「平成22年度上半期の業務履行に対する評価・意見書」に対する京都市の履行状況及びごみ収集業務改善実施計画の進捗状況報告について、①業務の安定履行、②市民感覚の徹底とサービスの品質向上、③分別協力率の向上や排出マナーに関する啓発、の3つの視点に基づき評価を行ったところ、取組全体としては一定の評価を与えられるものであった。

ただし、「不適正排出物へのシール貼付」や「安全運転の徹底」などについては、短期間での評価が難しい取組でもあるため引き続き取組状況を注視していく。

以下に、検討の結果、明らかとなった課題に対する意見を付すので、ごみ収集業務の改善に活用するよう努められたい。

<評価・意見書のポイント>

意見1：不適正排出物へのシール貼付の徹底

意見2：安全運転の徹底

意見3：ごみ減量と分別の向上

意見4：地域との連携に基づく総合的な環境行政の展開

意見1：不適正排出物へのシール貼付の徹底

不適正排出物へのシール貼付については、市民に適正なごみ排出を促すための最も有効な方法の一つである。

前回の「評価・意見書」で指摘した、シール貼付地域や枚数データ化に対しては、学区ごとにシールの貼付状況を把握する取組を始められており一定評価できる。

今後は、データを有効に活用し、継続的な不適正排出が見られる地域に重点的な啓発活動を実施するなどの取組を進められたい。

意見2：安全運転の徹底

安全運転の徹底は、ごみ収集・運搬業務において最も重要視しなければならない項目の一つである。

デジタルタコグラフを活用した運転管理の取組については、客観的に運転状況を分析・評価できる有効な方法であり、職員の運転に対する意識の向上にも一定効果をあげているが、個別項目では改善が必要なものもあり、市民に信頼される運転を目標に引き続き改善に努められたい。

なお、事故件数については21年度より増加しており、安全運転に対する市民の信頼

が、たとえ軽微な事故であっても損なわれる性質のものであることを認識し、事故件数の減少に向け取り組んでいただきたい。

意見 3：ごみ減量と分別の向上

平成 23 年 3 月に各家庭へ配布された「京都ごみ減量・分別ハンドブック」については、ごみ 1 k g 当たりの処理原価やごみを減らすことのメリット、更にはごみ減量の効果的な方法などについても具体的に記載されており、市民がごみ減量を身近に感じられる内容となっている。

また、学生等への積極的な啓発については、民間媒体を利用して学生等へ情報発信するなど、啓発活動は一定評価できる。

市民が協力しやすい資源物回収拠点の検討については、回収拠点の増設や回収品目の拡大など、市民のリサイクルに対するニーズに応えるべく、引き続き積極的な取組を継続されたい。

意見 4：地域との連携に基づく総合的な環境行政の展開

各区役所・支所に設置されたエコまちステーションについては、立地的な利便性が高まり、市民対応の質も高く、市民の身近な環境行政の窓口として定着しつつあり評価できる。

今後も、まち美化事務所とエコまちステーションが連携し、循環型社会・低炭素社会の構築に向け、地域に浸透した活動を展開していただきたい。